# 戦前のハワイ伝道と日系移民社会 ⑦

おやさと研究所研究員
尾上　貴行　*Takayuki Onoue*

## ２代真柱巡教とアメリカ誠心会ハワイ支部設置

本島、周東系統の布教師たちが活発な布教活動を展開する中、新たに布教を開始した他系統の布教師たちもいた。1931 年に長山ツギ（天元、後にパール教会を設立）、1933 年に岩田昌幸（防府、後にホノルル港教会を設立）がそれぞれハワイに渡っている。また 1927 年に渡米しロサンゼルスで布教活動をしていた東田春雄は、故郷の熊本から数名の布教師を呼び寄せたが、その中に妻ナカの弟本田兼記がいた。本田は春雄の命で 1932 年にホノルルへ移動して布教活動を開始し、4 年後にノウスホノルル教会を設立している。

こうした動きに拍車をかけたのは 1933 年 6 月の中山正善２代真柱の巡教であった。当時、ホノルル、ヒロ、太平洋、カワイ、マウイ、オアフの 6 教会が設立されていたものの、ようやく布教がその端緒についたばかりであったハワイに真柱が巡教にくるということは、在住の教信者にとって大変光栄なことであり、また大きな喜びであった。真柱は同年 8 月末にシカゴで開催された世界宗教大会に出席するためにアメリカ本土に向かう途中でハワイに立ち寄った。真柱、中山為信、上田嘉成、高橋道男の一行 4 名は、6 月 22 日にホノルルへ到着、多くの教信者、他宗派の代表、現地邦字新聞の記者などに迎えられ、太平洋教会まで 100 台近い自動車が列をなして行進した。同日一行はホノルルにあるオアフ、ホノルル、カワイの 3 教会を訪れている。24 日にはハワイ島へ渡り、ヒロ教会参拝。同島のマウンテンビューでは中尾三郎助（尾道、後に満天美勇教会を設立）など長くハワイに在住していた教信者とも交流している。

> ここ（マウンテンビュー：筆者注）に集談所がある。ここの所長さんは、何でも三、四十年前に日本から来たそうで、所長さんも役員さんも日本に居た時からのチャキチャキの天理教徒である。話されることはズッーと昔の教祖二十年祭頃の話で、一行には一寸も分からないお地場の話ばかりだ。この永い間、人にも知らさず、心秘かに抱いて来た熱烈な信仰。そして人に知られては笑はれる蔑られる、さては迫害を受けながら、かくれ忍んで神様をお祭りして来た。……「よもや、管長様に、今日来て頂けるとは思ひませんでした。こんな嬉しい事はありませぬ。一生の中一番嬉しいと思ひます。死んでも本望です。」と言って居られた。（上田嘉成、1933 年、21 ～ 22 頁）

また『アメリカ百日記』には、ヒロ教会である信者から「管長様と云えば六十幾才のお方と思っていました。私が国を出る以前ですから、明治 30 年頃でせう。本部へ参拝した時にも、相当な髭をはやした方でしたから…」(42 頁) と言われたとあり、初代真柱を知る古い信者も参集していた様子がうかがわれる。

当時、天理教内では教祖 50 年祭に向けての地方講習会が開催されており、この巡教を機に、6 月 23 日に太平洋教会（参加者百数十名）、24 日にヒロ教会（参加者約 30 名）で現地の教信者に対して、中山為信、上田嘉成を講師として地方講習会が開催された。さらに 26 日はホノルルの日本語学校で天理教紹介の映画と講演会が開催され、3,000 名を越える参加者を得る大盛況であった。

また２代真柱は滞在中に日本総領事館訪問、石鎚神社、出雲大社分院、布哇大神宮参拝、邦字新聞記者や銀行役員との会食など、現地在住の様々な人々と交流を図っている。当時、ハワイにおいて２大邦字新聞であった『日布時事』『布哇報知』の両紙には、一行来訪の様子、また２代真柱のメッセージが掲載された。日系移民の中には日本から持ち込まれた天理教に対する偏見と蔑視が存在しており、ハワイの布教師たちの活動にとって障害となっていた。しかし、一行の到着時に他教団の代表者も出迎え 100 台もの自動車で市内を移動したこと、２代真柱は東京帝国大学出であり同行した３名も高学歴であったこと、そして一行の来訪と天理教の教えが新聞に報道されたことなどによって、天理教は無知で無学の田舎者が信仰する教えであるという認識が改められる一助となったと考えられる。

また２代真柱一行にとっても、ハワイ社会また在住日系人に関する認識を改める機会となった。真柱はこのハワイでの巡教について以下のように述べている。

> 今日の布哇の道、それは更に一段と強い信仰意識を持って団結する時である。而して此新しい力と自覚とをもって第二世、延いては他の民族の人々へと働きかけるべき切迫した時旬なのである。……元来布哇と云う所は大して重きを置かずに国を出て来たので。アメリカに行く途中一寸息ぬきの為に、その教会を廻って来ようと思った位の軽い考えをしていた。所がホノルル上陸以来、最初の上陸地であった興味が深かったばかりではなく、あるゆる意味で非常な注意を必要とする土地である事に気付いた、……布哇は非常に印象の強かった土地である。此処は米領ではあるが、欧米人よりも東洋人によって開かれ又その数に於いても断然頭角を現しているのである。（天理教ハワイ伝道庁、2006 年、23 ～ 24 頁）

この真柱の巡教後、ハワイの強勢は伸展し、1934 年までの間に 6 つの教会が設立されている。このうち 5 カ所は女性が会長であり、また 4 名はハワイで入信した日系移民であった。

さらに 1934 年ロサンゼルスにアメリカ伝道庁が開設され、その活動の中心を担ったアメリカ誠心会のハワイ支部が設置されると、ハワイでの布教活動が一層推進されることとなった。辻豊彦初代庁長は 1935 年と 1936 年にオアフ島、マウイ島、ハワイ島などを巡回し、講演会や映画会を開催している。ハワイ支部発会式はホノルルの太平洋教会で開催され約 200 名が参集し、ホノルルのマッカレー青年会館で上映された映画会には 450 名の来場者があった。またカウアイ島でモルモン講堂を借用して行われた際には、200 名の来場者の中に少数の非日系人もみられた。

こうして 1935 年から日米開戦までにさらに 7 カ所の教会が新設された。1938 年 7 月発行のアメリカ誠心会『アメリカ』第 19 号によれば、ハワイの信者数は 2,294 名（うち 1,935 名はホノルル在住）となっており、教勢が着実に進展していった様子がうかがわれる。しかし、ハワイの天理教がその布教体制を確立するのは戦後 1954 年のハワイ伝道庁設立を待たねばならなかった。

［参考文献］
・天理教ハワイ伝道庁編『天理教ハワイ伝道庁 50 年史―伝道庁史編』天理教ハワイ伝道庁、2006 年。
・上田嘉成「御渡米日記」『みちのとも』1933 年 10 月号。